

民間のイニシアティブを重視した地域振興方策に関する調査

第4回 検討委員会 議事録

日時：平成19年3月13日（火）
12:30～14:30

場所：米子コンベンションセンター
5階第5会議室

1. 開会

事務局

本日はお忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございます。議事に入るまで司会を務めさせていただきます。本日の出席状況につきましては座席表をご確認いただければと思います。それから議事の公開につきまして、述べさせていただきます。会議議事録、議事要旨、いずれにつきましても、これまでの委員会と同様に公開という取り扱いとさせていただきます。議事録につきましては会議終了後、事務局が作成し、各委員にご確認いただいた後、公表いたします。議事要旨につきましても事務局が作成し、会議終了後、会議資料と共に公表いたします。その点につきましてあらかじめご了承くださいませよう、お願いいたします。以降の議事につきまして、委員長にお願い致したいと思います。岡崎委員長、引き続き議事進行につきまして、よろしくお願いいたします。

2. 議事

岡崎委員長

はい、それでは今回が4回目で、最終の委員会ということになりますので、いろんなご意見をいただければと思っております。お手元の議事次第のように、議題が主に2つございます。まず最初にパイロット事業の進ちょく状況と成果について、それから2番目が調査報告書（素案について）です。これは2つ分けて行いたいと思いますので、パイロット事業の進ちょく状況と成果についてのご説明をまずお願い致します。

事務局

それではお手元の資料2というA3のカラーの資料がございますが、これに基づきまして、パイロット事業の進ちょく状況と成果についてご説明いたします。前回の委員会の際にパイロット事業の進ちょく状況と成果ということで、ご説明させていただきましたが、その時点からの進ちょくを重点といたしまして、ご説明をさせていただきたいと思います。まず1枚目でございますけれども、全体像、まず左側に目次がございます。一部整理の仕方、構成を変えたところがございまして、実は②として圏域内情報効率化事業という書き方をしております。ここについては、以前はフリーペーパーとポータルサイトの複数で、別々の事業とし

ていたのですが、結局挙がってきた幾つかの事例を比較しながら提案していくという事業として、同じ事業として整理した方がわかりやすいんじゃないかということで②圏域内情報効率化事業としてポータルサイト、フリーペーパー2つの事業を一つにまとめてございます。その点が1枚目の変更点です。

2枚目めくっていただきまして、ポータルサイト事業の中で順次ご説明させていただきたいと思います。まず、新規コンテンツの共同作成ということで、前回もご説明しましたように、ミステリアスというテーマをもって2月1日にワークショップを開催し、それからポータルサイトにおいて、ミステリアススポットを教えてくださいというアンケートを実施しました。それによつての新規コンテンツを作成していったというところでございます。前はまだ、左側にワークショップとミステリアススポットを書いてございました。右側に作成したコンテンツということで、前はまだ公開予定ということでしたけれども、3月5日にホームページ上でこのような内容のものを公開しています。2ページの右側にあるのは例ですが、スポットごとでその場所の記事を書いているというものです。

3ページを見ていただきますと、3ページの左上の方にトップページ、「ミステリアス山陰・極めつけスポット」というのがございます。これはトップページになりまして、山陰のエリア全体をイメージしたような形で記事を作って、コンテンツを作っております。特徴的なところとして、この下の地図を見ていただきたいんですけども、ミステリアススポットとして、いろいろ集まったスポットをプロットして、オレンジ色でマークがついております。このスポットを見ていただきますと、この大山から中海宍道湖のエリア一円に、いろんなところに散らばっているんですけども、実は別途、前回もご説明しましたが、首都圏の住民にアンケート調査を実施しています。その中で実はミステリアスというようなテーマで言ったときには、圧倒的に出雲の印象が強くて、他の印象が薄いというような結果が出ていたんですけども、これを見ていただきますと、やっぱりこの圏域全体でそういうようなイメージというのが確立できるんじゃないか、新しい展開ができるんじゃないかというような示唆が得られています。

右側の上の方の四角、これは赤い字で書いてあるところが、前回の委員会から特に追加したり、強調できるように、関係者の意見を聞きながら強調できる点を赤色で示してございます。その中で幾つかご紹介しますと、特に上の四角の関係者の意見・課題というところを見ていただ

ればと思いますが、先ほど申しましたように一つ、新規ミステリアスということで、いろいろ観光戦略の中で、新たな切り口というものを見つけられるんじゃないかなというようなこともありますし、こういう企画を仕上げる楽しさや効果ということを体験できて、他のテーマでも取り組みたいというような意見も出てきております。

ただ一方で、4 つ目の丸なんですけれども、ポータルサイトの運営者の方に、相当な労力が必要となったというようなご意見が出ております。これを踏まえた成果として、その下にまとめておりますが、今言ったようなことを成果としてまとめてございます。前回も示したものと近いような内容になってございます。

それから4 ページを見ていただければと思いますが、今度は特派員による、コンテンツ供給というところがございます。このページに記述していることもほとんど変わってございませんが、実際、前回の委員会の時にはまだこのコンテンツができておりませんでしたから、予定ということになっておりましたけれども、具体的には3月5日にホームページ上で公開してございます。従前は3人の投稿記事ということで占めていたものを、特派員という形で多数の人が関わりながらやっていくようなことで広げております。例えば次のページを見ていただければと思いますが、5 ページの左側の下のところに特派員の状況・3月7日現在というのがあります。ここに示しておりますようなテーマに分けながら、投稿する特派員の方をお願いいたしまして、記事を投稿していただくというような仕掛けをしています。これにつきましては、右上の方の、パイロット事業を通した関係者の意見・課題等というところまで見ていただければと思うんですが、特に2 つ目の丸、もともとこれは労力の軽減ということをねらった部分ではあったんですけれども、その効果はあるんだけれども、より情報の厚みが増したということに対して、意義を感じられたというような関係者のご意見もございます。

それから他のポータルサイトの運営者の方から、そういう情報を活用したいという、特派員としての参加というようなことに対しても意欲が出ている、というようなこともあります。一方でその下から2 つ目のその次の丸なんですけど、継続して投稿を続けてもらう、まだ今は始まったばかりなんですけれども、今後の問題として継続して投稿を続けてもらうには、何らかのモチベーションのようなものも必要になってくるんじゃないかというようなご意見も頂いております。それを踏まえて、下にあるような成果ということでまとめております。ここも前回のイメージとして考えたことと、ほぼ似ているような成果というようなことが期待

できるんじゃないかなというふうに思っております。

それから次の 6 ページでございますけれども、ポータルサイトの 3 つ目の事業で、施設運営者による情報更新というシステムということで、左側にあるイベント情報トピックスというようなものが並んでいますけれども、この施設、イベント情報をそれぞれの運営者が更新してもらうということです。これは特に労力の軽減をねらったものになりますけれども、先ほどの前のページの特派員で説明したのと同じように、内容の充実と、負担軽減というものを期待しておりまして、先ほどの事業とも似たような効果というものが期待できるんじゃないかなというふうに思っております。

それから次の 7 ページですが、ポータルサイト事業のうちの市民投稿システムでございます。自由に投稿できるシステムということで、山陰の中で、見たこと聞いたこと体験したことを投稿していくというシステムでございます。これは相互の交流をしながら、投稿内容に対してレスポンスする、というようなシステムで、特に前回もご説明しましたが、左下のところに投稿状況がございまして、3 月 11 日現在で 172 件の投稿ということがありまして、非常に短期間に活発な投稿がなされているというようなものです。

次の 8 ページを見ていただければと思うのですが、8 ページの左上のところなんですけれども、投稿内容について、ちょっと分類をしています。どういうテーマ別に投稿されているかということの分類をしてみました。これを見ていただきますと、食べ物がおいしいとか、にぎやかな祭り、イベントなど、下の方にありますが、そういうものが非常に多かったりとか、上の方で自然環境、自然景観といったものの投稿が多いというような結果が出ております。こういう市民の関心が高いのは、何について関心が高いのかがわかってきますので、どういう情報をこの地域に発信していけばより訴えられるのか、というのがちょっと見えてくるのではないかなというのが第 1 点でございます。

それからその下の箱でございますが、アクセスが多いということもあって、この事業は収益事業としての期待があるんじゃないかなということで、その可能性の検討をしてみました。かなりアクセス数が多いということもありまして、そういうことから考えて広告料金がどれくらい取れるんだろうかというようなところの試算をしてみました。大体広告料金はその下の表に幾つかの程度書いてございますけれども、その中で例えば 10 団体の広告というものが確保できれば、年間 240 万の資金確保というものをできるんじゃないかというような期待もあって、一つの間

支援組織を組み立てていくための核にもなる期待が持てるのではないかなというところがございます。

また、右上の方でこの事業を通した関係者の意見・課題というところを見ていただければと思いますが、特に携帯電話からの投稿など、気軽に投稿できて、しかも応答ができるということがあって、多くの市民の参加が得られたのではないかなというのがあります。それから、先ほど申しましたように3つ目の丸なんですが、閲覧者アクセス数が多いということがあって収益事業の可能性ということがあります。更に現実に次年度以降、運営の協力を意欲的なところというのも出てきてもいいというところもあります。それから、先ほど申しましたように投稿のテーマというものを見てみると、食べ物、祭り、イベントというのが多いので、観光振興なり、地域振興なりを図っていく上で、どういうテーマを取り扱えばいいのかというヒントも得られたのではないかなというところがございます。

それから次のページ、9ページをめくっていただきまして、圏域内情報の効率化事業として、ポータルサイト、これは前回委員会の資料と同じでございます。山陰観光・旅のポータルと、さんいん旅ねっと、山陰観光連盟、この三者を比較したものでございます。それから10ページ、次も似たような話ですが、フリーペーパーとして3つを取り上げまして、比較をしてみました。11ページを見ていただければと思います。11ページの左側ですけれども、これについて関係者の反応がどのようなものかをまとめたものが、この左の箱でございます。ポータルサイトに関連しましては、一つ目のポツの、連携は必要なんじゃないかなというようなご意見、特に2つ目のポツの下線部を見ていただければと思うのですが、その基礎データとかイベント情報というか、その事実を示すような情報について共有化という可能性があるんじゃないかというご意見もございます。それから5つめのポツのところの冒頭に、写真とかデータストックの共同利用を進めるということであれば、モデルとして考えていけるんじゃないのかなというようなご意見なんかもございました。一方フリーペーパーに関して見てみると、ちょっとポータルサイトとは違いまして、連携はちょっとやっぱり難しいんじゃないかなというようなご意見があります。印刷とか流通なんかのコストの発生、それを分担するのかというような問題があるというようなご指摘がございます。

それからこういういろんなものの比較にして、効率的に運営できないかというようなことで、中間支援組織が提案者になることの意義について聞いたところがその下のポツでございます。3つ目のポツの中の下線

部を見ていただければと思いますが、それは行政でも民間でもない中間支援組織であるとともに、地元との利害関係の薄い外部の人材だから、そういう協力が、支援に対する協力ができたというようなご意見もあります。それからその一番下のポツなんですけれども、情報を一元化する組織であるとよい、というようなご意見も頂いております。

ここから右の上の方の四角のパイロット事業を通した関係者の意見・課題等というところを見ていただければと思いますが、一つ目の丸ですが、中間支援組織であることということで、内部情報を出していただいて支援することができたというのがあります。ただし、3 つ目の丸ですが、ただし、そのポータルサイトについては、その特定の機能とかコンテンツについての共同利用の可能性は大きいのではないかというような示唆が得られております。

それからその次 12 ページでございますけれども、圏域外の情報の共有事業ということで、アンテナショップだとか、それから地元資本の飲食店の東京の支店というところを使ったような調査、それからそれ以外、インタビュー調査いうことを幾つか行っております。前回の委員会資料に対して、アンケート調査の結果はご報告したところだったのですが、左側の方での、上の首都圏意識調査というところの真ん中くらいから首都圏メディアインタビュー調査というのと、一般消費者インタビュー調査というものを新たに行っております。首都圏のメディアの方にその地域の売り方というものをインタビュー調査で聞いているというのがあります。そこで見ると、この素材をメディアとして取り上げるにはテーマとしては弱いというような厳しいご指摘もありました。

一方で、一般消費者、主婦だとか団塊シニア層といったような方々について、インタビュー調査を行っております。ここで見ると例えば 2 つ目の丸ですが、アンテナショップは物販よりも飲食の方が魅力的だというようなご意見も見られます。あとはその下、圏域内のヒヤリング、自治体や物産協会でのヒヤリング、それからその下は広域で行っている共同のアンテナショップのところのヒヤリング結果というようなものは前回もご説明した通りでございますが、これらを踏まえて、この右側なんですけれども、この圏域外情報というものの収集とか共有とか一体的な情報発信、販売促進、アンテナショップの提案というようなものを中間支援組織として、作成してきました。中身はこの 1、2、3、4 と今ご説明したように、情報の収集と共有と発信、販売促進それから、アンテナショップという内容になっています。この提案をしながら地元の関係者にご意見をお伺いしたというものがございます。

それから 13 ページの方では、こういうことにつきましてご意見をお伺いしたもので、まず一つ目は、左側の一つ目、地元から出店しているアンテナショップとか飲食店という方にお話を聞いたところ、まず通常の営業活動の中で、どれが売れるというような情報を把握してられているようなんですが、どうもうまく活用していないとか蓄積していないとか、というような現実があるようでございまして、そういうものをうまく共有したりとか充実したりということ、それからその協力の可能性ということをお聞きしたところ、賛同できるようなご意見を聞いております。それからその下、自治体観光セクションとか、物産協会、商工会議所、その方面なんですけれども、特に 3 つ目のポツの下線部を見ていただければと思いますが、情報の収集機能と、整理・提案内容をつけて発信するという機能は、まさにこの圏域で求められていると考えられ、共感できるというようなご意見も頂いております。13 ページの右側の方のパイロット事業を通した関係者の意見・課題等というところのまとめをしておりますけれども、ここでは自治体とか物産協会、商工会議所、それに関した販売者といったような連携というのはうまくとれているとは言い難いという状況があります。ただ、そういうものをうまく潤滑するための中間支援組織が役に立つということが一つ見出せたのではないかなというふうに思います。それから特に地元資本の首都圏の店舗、民間店舗なんかでは、地域を売り出すということが重要だと考えておられる方もいらっしゃるので、うまく協力をしていただけるような意向はあるんじゃないかなというところがわかってきております。

それから 14 ページからは、先ほどの首都圏のアンケート調査の結果を示して、14、15、16、17、18、と示してございます。それから 19 ページ、ちょっとこの辺、説明を省略します。19 ページはインタビュー調査、先ほど言ったように、メディア関係者とそれから一般消費者のインタビュー調査結果でございます。省略したいと思います。

20 ページになりますが、講演会、それから交流会事業、前回の委員会をした時には、第 1 回の講演会、交流会しかなかったところでございすけれども、今回は、前回の委員会の時に、当日に行いました第 2 回の講演会、交流会の結果を付けております。ここの中で特に注目していただきたいのが、20 ページの右側のところで、下の箱の真ん中より下の参加者数というところの下に、交流会で交わされた交流内容というのがあります。その四角で囲まれたところの 3 つ目のポツなんですけれども、それは交流会の中で、助成委託事業、そういうような応募を目指したようなタイアップ連携的なものを、この交流会をきっかけとして、協議を

やり出したと言うような事例も上がってきておりまして、そういう成果も出てきているということがございます。21 ページを見ていただければと思いますが、左側は当日来場された方のアンケート結果でございますが、ちょっと説明を省略しまして、21 ページの右側の上の、パイロット事業を通した関係者の意見・課題等というところでございますが、関係者の意見を聞いたところ、中間支援組織をやって、その圏域の人たちが取り組みに向けてのスタートを切るという意味での意義を感じておられたりとか、それから一つ飛ばして 3 つ目の丸ですが、交流の場を設けるだけでは交流は進まないだろうと、交流促進に向けた工夫が必要というようなご意見なんかも頂いております。

それから次に 22 ページですが、インターネットの相談事業ということで、いろんな活動をしている方が、活動とか組織運営の課題というものをネット上で相談して、それを活動している方がそれぞれ、相互に対応する、答えるというシステムで取り組んだんですけども、相互相談という形でシステムを作りましたが、左側の真ん中くらいの結果というところを見ていただければと思いますが、非常に活用実績が少ないという結果が出てしまっております。これについて、下側の四角の中にあります、どういう要因でこれについて、こういう結果が出てしまったか、というふうについて幾つかヒヤリング等を通した分析をしまして、大きく 3 つの課題があるんじゃないかと思います。一つは課題とかアイデアをネットで公開するシステムなので、公開してしまうというという部分に対する躊躇があるということ。それから顔の見えない相手に相談するという不安感がある。それは似たような話であると思いますが、そういうものがあると。それから 3 つ目は、松江市市民活動センターとかしまね NPO 活動支援センターとか、現に相談に乗っている内容を聞いたところ、手続に関する相談が多くて、実際の活動内容に関する、事業に対する相談が少ないような実態があるようで、そもそもニーズが少ないということもあるかもしれない、というようなところが上がってきております。

22 ページ右側の方の、上の方のパイロット事業を通した関係者の意見・課題等を見ていただければ、一方でその 2 つ目の丸なんですけれど、一方でこの圏域の中で、いろいろと活発に意見交換されているようなメーリングリストの中に、ここに相談したのと同じ内容の投稿を試みたところ、すぐにアドバイスが出てきたということがあります。やっぱりこの信頼性のあるようなところでやってみることが、ネット上でやる上での必要なところではないかと思います。以上がパイロット事業の進ちょくと結果報告になります。

岡崎委員長

はい、ありがとうございました。前回委員会に引き続きの部分が、主であったとは思いますが、その後、付け加えたいろんな事業がございますので、このパイロット事業について何か、ご質問等が、ご意見とかございますでしょうか。はい、どうぞ。

鈴木委員

これは、ぜひ石村さんにお答えいただきたいんですけど、ポータルを支援する事業があったんですけども、これが実際どうだったのか。ここに書いてある中身で全部というならそれでいいんですけども、それ以外に何かあるなら、ぜひお教えいただきたいのが一点。あと、記憶があいまいで申し訳ないのですけども、地域からの要望として、パイロット事業にいただいたのが、①、②、③で、④、⑤は事務局サイドからの提案のパイロット事業だったんですけども、この辺のところでも、違いというか、実際にご提案されて、人数が増えたものと、そうでないものとの違いがあったかどうかなど、その辺の感想めいたものを教えていただければと。

石村委員

今回は、ポータルサイトのコンテンツを充実させていくということで、確かにこの取り組みは支援いただくことによって、新しい切り口で、中身が充実できたと思います。一つ、私がこだわったんですけど、神秘性、ミステリアス性ということで、この山陰を売り出すことができれば、また違った、いわゆる差別化というのか、売出しができるんじゃないかなっていうことを思ってですね。それを話したところ、多くの方に理解をいただいて、実際にワークショップをしまして、意見を出し合いますと、いっぱい出てきて、もっと時間をかけて何度も何度もやれば、ほんとに山陰の特殊性というものが浮かび上がってくるなと思いました。インターネットでも募集かけたところ、61 か所ですか、これは時間のない中、ホテルの宿泊券を提供するというプレゼントもあったんですけども。それをみんな期待して書いたのではなくて、地域のそういうことをみなさん感じてらっしゃるんですね。それを伝える機会が今までなかったと。これをホームページで募集をかけたところ、自分の思いを、書けるということで、結構熱く書いていただいた方も多い。

ここに例が出てますけれども、田和山の遺跡とか、多古の七つ穴とか、なかなか他では見れないような文章といいますか、視点というか、出てきましたので、改めてこの山陰を、従来の観光っていう、いわゆる従来の観光の切り口じゃなくて、またちょっと違った形での、切り口でとらえることができると改めて感じました。

トップページの文章は3ページ目に、関係者の意見交換のワークショップということで。確かにこれはかなりブレインストーミングというものをやってきて、出てきた文章なんですけども、今では神話の国、鉄の歴史っていうものが大変、この地域にとっては大きいなと。それににかかわるミステリアスのポイントも、独特な精神風土もできているだろうということで。これからは陰なる国という開き直りですね。陽なる国は20世紀型だとしたら、陰なる国ってもしかしたら21世紀の社会の中ではきちんと打ちだしていいことなのかなっていうことも、改めて感じたりもします。昔、ブラック・イズ・ビューティフルなんていう言葉がありましたけども、昔はブラックはビューフルじゃないっていうふうに言われてた。差別という、人種差別があった時代がありましたけども。もしかしたら20世紀っていうのは、陰はビューティフルじゃないっていうようなふうに思われがちだったと、特に高度成長時代から70年、80年、90年代の中ぐらいまではそうかもしれない。でも、結構この21世紀になってくると、陰っていいな、みたいな開き直りが必要なのかなと思ってます。そんな中でこんな、ブレインストーミングしながら神在月、メディアの方がインタビューの中で書かれてたということで、神在月をもっとアピールしたらっていうことがあったんですけども。やっぱりこの地域に神在月がある理由みたいなものを探っていったら、山陰の、ほんとに独自で、良さみたいなものが。決して、悪いから神が集まるのではない。神様が集まる意味は、いいところだから集まるのだろうと。なんで集まるのかなって、その辺りをちょっと探っていく。私どももそうだし、これを観光客の人にも投げかけて探してみるようなことが必要じゃないのかなということ、こういった話の中で確認できたりしたと思います。

このミステリアス山陰ということで、ポータルサイトを充実させていたいただいたというのは、ほんとに結構な、思いはあっても形にできなかったので、そういう意味では今回の支援をいただいたっていうことは、大変ありがたかったなと。この手法を、書いてあるように、いろいろな形で使っていくことができるんじゃないのかなっていうふうに思いました。たぶんこれは、この地域で取り組んだんですけど、全国のモデルにも、案外なりえるかもしれないです。各地域でみんな、熱い思いを持っている方がいらっしゃいますので、そういう方たちに集まっていただいて、意見出しをする、ブレインストーミングをするという、またインターネットで情報開示をする。インターネットの場合は、割とみんなアップが早いんですね。紙に手で書くと、みんな書けないって終わっちゃいますけども、キーボードの上で打つと、割とみなさん、思いの丈、書か

れますので、やっぱりその中には上手に書かれるんだなということが確認できたと思います。ますますコンテンツが充実したと思います。

それからもう一点。特派員によるコンテンツということで、なかなかこれはお願いすることで、ちょっと時間がかかったりしましたが、やっぱり思いがある方がいらっしゃいますので、話をすれば。特に、私が鳥取県側の方が中心でしたけども、4ページのあたりで、たくさんではないですけども。実は、鳥取県と島根県のバランス取らなきゃいけないということで、鳥取県側も了解いただいているんですけども、島根県側の数が出てこないと鳥取県ばかり載せてもまずいんで、止めているところですけども。島根県側にも、今、そういうふうをお願いしていますので、島根県側が幾つか出てきたら鳥取県側も載っけていけるんじゃないかなと思います。またこれは、それぞれの方の視点で書かれますので、しかもそれを多くの方に読んでもらうということで、日記じゃなくて、自分は観光情報を知っているんだよっていう人が、思いを持って出されますので、いわゆるブログの日記とはちょっと違う形のものかなっていうふうに思います。始まったばかりですので、今後充実していけば、かなりの人に繰り返し見ていただけるようなことになるのかなと思います。

鈴木委員

具体的に、何か、アクセス数が増えたとか、そういう効果はあったんですか。

石村委員

今日はデータを持ってきていませんが。ヤフーとグーグルの検索のランキングはかなり上がりましたね。11月にオープンして、この前見たときには、まだ検索の2ページ目なんですけども、従来は3ページ目、三十何位というのが、1月、2月に入って、14位とか15位とかっていうことになっています。たぶん3月、4月、春ぐらいになったら、4月以降はアクセスが増えるんで、たぶん1ページ目に載って、今年、後半ぐらいには、トップスリーぐらいにはなるんじゃないのかなと。それくらい更新がすごいですから、11月にオープンしたサイトですけど、いろいろな観光地で、こういうサイトを運営してるところでは、たぶん全国でも例がないくらいの中に入ってきていると思います。グーグルなり、ヤフーなりのランキングが上がるっていうことは、イコール、アクセス数が増えているということで、詳しい数字は、また、どこかでご報告できるんじゃないかと思います。

岡崎委員長

はい、ありがとうございました。私は、2000年でしたか、出した、観光政策審議会のレポートが21世紀の日本の観光政策ということで、出したわけですけど、そのときに専門委員として入ってまして、そのときのテーマが二つありまして、一つはどうやってインバウンド、外から日本に観光に来る人を増やすかということですね。これは小泉さんになって、一生懸命、観光立国計画なんかをやったんですが、もう一つ、大きなテーマが、観光まちづくりというテーマで。今までは、いわゆる観光地を観光する人をターゲットとして、どう育てるかってことだったんですけども、そうじゃなくて、そういう地域の自然を観光ということで、自然を浪費するタイプの観光政策ではなくて、それぞれの町で、いわゆる町を魅力的なものにしようとする、まちづくりというものが、これからはいわゆるツーリズムのターゲットになるんじゃないかと。例えば大分県の由布院なんかも、もちろん温泉とか、有名な、幾つかの旅館とか、そういうのはもちろん観光のターゲットなんですが、由布院の町を、由布院の町民もゆっくりと歩いて、ここにこういう古いお寺があるとか、そういうことを普通の生活空間としてみがき上げることが、外からくる観光客にとっては非常に重要なものになってくるんだという主旨のことを、観光まちづくりというふうに称して、もう一つ大きな柱として立てたんですよね。そういう視点から見ますと、この4ページに現状、特派員として協力依頼をいただいている方々が、いわゆる従来の観光の担い手の方々なんですよ。これからそういうふうにして観光というものの自体、変わるということであれば、今日、田口さん、柳沢さん、渡部さんっていう委員の方、おいでいただいているわけですけど、こういう方々がこれから、この特派員になっていただければ、違うタイプの山陰の情報、しかもかなり持続的な、新しいツーリズムの対象として、資源の発掘できるようなですね、そういうふうに変わっていく可能性が、たぶんあるんじゃないかなっていうふうに思っています。そういうタイプの、特派員の方々をここに登用していただくようなシステムを作りいただければ非常に山陰が出てくるのかなと、今、お話を伺っていて感じたところです。

石村委員

平田さんをはじめ、実はお願いはしているんですが、なかなかタイミングが合わなくて。今日、せっかく参加いただいていますから、一つずつ枠をとりますんでぜひ参加していただきたいと思います。やっぱり今、観光立国推進基本法ができたりして、生活文化っていうのが大きなキーワードになってきてるんですね。景色を楽しむってことだけじゃなくて、

その地域の生活文化を見たいっていうことで、特に松江なんかは生活文化をすごく大切にされていらっしゃると思いますので、とても魅力的な町並みに人気がある。その生活文化を否定した町っていうのは、全然魅力的じゃないんですよね。そういう町が、全国各地にあります。山陰もあるところもあるんだろうと思いますけど。そういう意味では生活文化の特派員を提供できたらいいのかなと。

それで今の、国の方の狙いとして、市民投稿システムはありますので、こちらはハンドルネームでかまわないので、こちらから、お借りして掲載してですね、どんな反応があるのかななんていうのを、試しにやっておられて。こちらほんとに短い文章で、期限を設定すると、そのときで自分の記事が消えますという、そういうところからやられてですね。それから、ポータルサイトの特派員へのステップアップもできるんじゃないかなと、いう気がしました。

事務局

もう一つのご質問の件です。今の、講演会、交流会、それからインターネット相談事業の部分なんですけれども、この中に、広域圏のまちづくりの観光がテーマということで、もうちょっと一般化したものとしてとらえて企画したものでございます。ちょっとそういう意味ではこの、ベーシックなものかなと思いついてやっている部分があるんですけれども、この交流会なんかは、特に行政区域を越えたところでの交流をどう進めるかというようなことを行うときには、あえてそういう区域に、広い範囲の区域の人たちを使って、人を集めたりとか、そういうことをすることによって、新しい交流が生まれるということは十分な期待ができるようなものになるのではないかなというふうに思います。中間支援組織としても、そういう交流を進めるというようなことは、非常に大事なことでありますし、その交流会をするときのきっかけとして、まあ呼び水というか、こちらが交流会ということを組み合わせてやるということについては、うまいやり方ではないのかなというふうに思っております。

一方、インターネット相談事業の方が、先ほどちょっとご説明したように、実はあまり成果が上がっていません。活用実績が非常に少ないという。同じように一般の人が投稿できて、いろんなことが書けるという市民投稿システムに比べても、見ていただければわかりますが、全然違う状況になっています。これにつきましては、いろんな要因があるんだと思います。決してネット上での相談というのが全然できないという環境ではないんですよね。ただ先ほど言ったメーリングリストにしても、石

村さんのところも大山王国のメーリングリストに同じものを書けば、相談に乗ってくれた人もたくさん出てきたと。やっぱりそういう、ちょっと信頼性というか、そういうものが大事になってくるだろうなと。そういう意味では、今回やったのは、ちょっと性急にシステムを作って、性急にやり過ぎた感はあるのかなと。もうちょっと信頼感とか、ユーザー、もしかするとそのいきなりオープンな状況っていうのは、あまりにも抵抗感が強すぎるという部分があったのかなというのはいいます。もうちょっと地元での熟慮というか、そういうのを見極めながら進めていく事業なんだろうなというふうには感じました。

岡崎委員長

ほか、このパイロット事業に関連して、何かご意見やご意向があれば。

毎熊委員

先ほどの、市民活動相互相談システムですけども、3 つめの理由で挙げられた、この相談人数が少ないというのは、そんなことはないと思うんですね。いろいろアンケートなんか見ても、NPOの方が相談すべきニーズを持たれてない、特にないんだろうと。例えば、県なんかに対して、行政でもいいんですけど、そこに対しての、例えば研修会を開いてくれとか、そういった要望は結構ありますしね、上がってきているニーズが少ないというのが背景だと思いますね。ここはちょっと書き方を変えていく必要があるんじゃないかなと思います。それに関連して、だからこの相談が少ないってわけでないでしょうけど、やっぱり NPO 同士の連絡協議会というのか、横の連携なんかの様子をちょっと、外から見たりしていますと、ほんとにいろいろな NPOの方が、自分たちの事業で忙しいというところが、かなり強いようなんですね。それがほんとに忙しいのか、言い訳にされているのか、よくわかりませんが、やっぱり相当に忙しくされている。例えばアンケートだけでも、いろんなところからきて、それに答えるのももう辟易しているっていうような声もよく聞きます。

そういう連携とか、そういったときに、その連携する、連携にかかわってくるNPOであったり、人の立場というものを、しっかりと把握する必要があるのかなという気がします。それに、今日の話でも、ちょっと驚いたのは、市民投稿システムですね、僕も投稿しましたが、匿名で投稿しましたが、和菓子を投稿したんです。あれはやっぱり、簡単にできるということが一つ大きな要素だと思う。直接参加みたいなことができるんですね。それから、僕、和菓子ということでアップしましたが、ネタがとにかく何でもよくって、身近なんですね。そこも近づき

やすいっていうことになってるのかなと。逆に、今度はインターネット弊害の一つかもしれませんけども、例えば別の面で連携がなかなかうまくいかなかったっていう例でいうと、これはかなり連携自体にハードルが高いようなところがあるんですね。負担がまず先にきちゃうとか、そういったところがあるんで、ただそれでも、負担を負ってでも何かやるべきだと思っている人たちがやっぱりいるわけなんで、そこはそれとして、課題を明確にした上で共有するという方向が必要でしょうし、逆にさっき言ったように、ちょっと何か参加できればいいやっていう人にとっては、ほんとにハードル低くして、参加できる仕組みっていうものを作ることが大事な。さっき鈴木さんがおっしゃったように、さっきの投稿システムに投稿して、それでユーザー、何回も投稿する人にはちょっと目を付けて特派員になっていただくとかですね、そういう何か、段階的な連携っていうか、参加っていうか、そういうのが、必要なのかなということを改めて感じました。以上です。

岡崎委員長

はい。市民活動相互相談システムっていう、この名前が重いのかな。おっしゃるように、いろんな問い合わせやちょっと聞いてみたいこと、相談したいことはあるんだと思いますが。ほか、何かこの、パイロット事業に関しては、ございますか。よろしいでしょうか。そうしましたら、2番目の調査報告書の素案の検討についてということでご説明をお願いします。

事務局

資料3でございます。まず、この報告書の素案ですがけれども、今回1回しか委員会での議論ができませんので、今後の進め方からまず先にご説明しますと、本日の指摘事項を踏まえまして事務局の方で作業をもう一度行います。後で中を見ていただければわかりますけれども、前半部分で、これまでの委員会の資料を差し込んでいっただけで文章を書き換えるところとかもございますので、そういうところも含めてもう一度事務局の方で報告書の案というものを今日の議論も踏まえて作成すると。その上で、それを皆さんには郵送でお送りいたしますので、その中でご意見をちょうだいするという形。そのご意見をもらったものを含めてもう一回修正をして、岡崎委員長に一任していただいて、委員長と相談した上で報告書を完成させるというような手続きで進めたいというふうに考えております。それを前提にしながらこの報告書の中身についてご説明をさせていただきたいと思います。

まず、目次のところを開いていただければと思います。目次は、前回

の資料の最後の方に付けましたけれども、第1章、第2章、第3章、第4章の4章構成でございまして、第1章が「調査の目的と構成」というところ、第2章は「現場検証」ということでこの圏域でのモデル調査活動、中間支援組織を立ち上げていろいろな事業を実施したというところとか、この圏域内におけるいろんな団体の現状というものを整理してございます。第3章が「事例検証」として、幾つかヒアリングを行いましたところがございますので、その中から得られた内容を第3章にまとめました。第4章は、それを踏まえた総括として、「民間のイニシアティブを活かした地域振興に向けた中間支援組織の在り方」というようにまとめてございます。特に第1章から第3章までは、これまでの委員会で報告させていただいた内容を整理した内容になっておりますので、今日は特に第4章を中心にしたいと思いますが、1点、第1章の中でご説明したいところがございますので、第1章の第2節「中間支援組織とは」というこの調査の前提になる部分についてだけ、まずご説明したいと思います。

3ページをお開けいただきたいと思います。3ページに中間支援組織とはということで整理しています。大きくは2つの内容になっておりまして、1つ目は、いろんな調査なり文献なりから中間支援組織をどう定義しているかというのを整理しています。1つ目は内閣府の2002年の調査でございますが、この中では、今の①というところの文章の下3行目を見ていただきたいんですが、人材、資金、情報などの資源提供者とNPOの仲立ちをするということだとか、そのすぐ下の行ですが、各種サービスの需要と供給をコーディネートする組織というような定義をしております。

それから、4ページでございますが、②としまして、経済産業省関東経済産業局の調査、平成17年の調査でございます。ここでは、特に、コミュニティービジネスの事業者を支援する中間支援機関というものを書いてございます。この役割として、その下に四角囲みがありますけれども、ここの4つ目の段落「なお、このような」というところから始まるところにまとめてございますが、経営資源の仲介といったようなもの、それ以外に自らの資源を活用して相談するようなこと、その後1行飛ばして、その下の、周囲の者にコミュニティービジネス自体の意義の啓発を行ったりとか、個別に求める企業にかかわる情報の発信とかに回るといったような整理をされています。

それから、その次、③NPO法人日本NPOセンターの定義というところでは、四角囲みの中の(1) (2) (3) (4)を見ていただければと思い

ますが、NPO の支援とか、分野を特定せず、常駐の事務所があつて相談に応じることができる職員がいる、そういうような定義をされております。

それから、海外における中間支援組織の例として、1 つ目はグラウンドワークトラストという英国のものです。これは 2 段落目の冒頭のところから見ていただければと思いますが、市民、企業、行政のいずれにも属さない中間的なセクターという形での位置づけで下のような絵のイメージを描いております。

それから、⑤で、もう一個海外で、メインストリートプログラムというアメリカの、これはダウンタウンの再活性化に取り組む組織でございます。5 ページの下から 2 行目ぐらいのところにどういうものかというのが書いてあるんですが、専任のメインストリートマネージャーというものを中心にして、関係者のパートナーシップづくりだとか、ボランティアの人材の管理とか、資金集め、広報、財務管理といったものを行っている組織というふうになっています。

それから、⑥としまして、そのページの下の方ですが、島根県の地域づくり中間支援組織活動支援事業というものがございます。この中でも中間支援組織がこの事業の担い手となる定義があつて、6 ページの下の方角囲みがあります、1) 、2) 、3) とありますが、ここに書いている内容、地域会社、地域 NPO の育成、コミュニティービジネスの支援、それから、地域会社、地域 NPO 及びコミュニティービジネス組織のネットワーク化というものを掲げてございます。

それから、7 ページにまいりまして、⑦新潟県の NPO サポートセンター、1 行目の後ろの方から、NPO が活動しやすい環境の整備とか、市民、行政、企業と NPO をつなぐ役割を果たす、それから、地域の NPO の育成とか NPO 同士のネットワークというようなことを挙げながら紹介していくというような整理をしています。

8 ページにいただきまして、こういうものを受けて、本調査において中間支援組織をどう考えるかというところでございます。大きく 2 つのことで整理してみました。1 つ目は、支援の対象の主体としてどういうものかを考えているかということです。これまでの事例を見ていく中で、当然、NPO なら NPO という形で言っている部分も多いんですけども、NPO だけじゃなくて、多様な民間サービスで、市民とか地縁型コミュニティーでも企業とか経済団体といったものもあるだろう、そういうものを支援の対象と考えているのがまず一つ。それから、そこに行政として書いていますが、行政も地域振興を図る上で一つの活動主体とい

うふうにとらえて、行政からの距離を持って考えるというところ。この2段落目の「さらに」という部分に書いていますが、特に、本調査は、複数の自治体にまたがる広域圏を対象としているという意味では、自治体間の連携を図っていくということを入れておく必要があるだろうということを書いてございます。

それから、②、このような組織の中心となる活動というのはどんなものがあるか。大きく3つに分けています。1つは、連携とかネットワークの強化ということで、ここで書いているのは、いろんな主体がいろんな活動を行っているということではあるんですが、個々の力で得られる効果というものは限られている部分があるんじゃないかと。その個々自体の力を連携することによって大きな力に変えていくというようなことで、連携ネットワークということです。2つ目は、連携と似ている部分ではあるんですけども、個々の力はそんなに大きくない力かもしれませんが、いろんな目的を統合化するとか、活動関係を整理して同じ方向に緩やかに向かっていくというような基盤を作っていくことによって大きな力にしていくというような部分。それから、3つ目としては、各主体、それから、その主体が行う活動に対して個々に支援するというものがあるのかというふうに考えております。

こういうことを前提としながら進めていくというふうに整理をいたしました。その上で、それ以降のところはこれまでの委員会の中でご報告した経過というところなので、省略をさせていただきまして、50ページに飛んでいただきたいと思います。50ページに、第4章として、これまで進めてきたパイロット事業なり事例調査ということを踏まえまして、中間支援組織の在り方というものをまとめてみました。

第1節としまして、中間支援組織の意義というところでございます。この記述の仕方ですが、最初の四角のところに概要を書いていまして、詳細を細かく、今回やった調査でのパイロット事業なり何なりでのどういうところから得られた話なのかというのを書いています。四角の中を中心にしながらお話を進めたいと思います。

まず、第1節の「中間支援組織の意義」としては、今回のモデル圏域での調査を踏まえて、多様な参加というものがこの圏域でも促されて連携も強まりつつあるということで、中間支援組織を進めていくという意義はあるんじゃないかと。特に、行政区域を越えているというところで一層その役割が大きいということが言えるんじゃないかなというふうにまとめております。

それから、第2節として、「中間支援組織に求められる要件」という

ことで、どういう要件を中間支援組織の資質として備えていくべきかということをございまして、ここでは①から⑤という形に整理しております。四角の下のところでは順番に幾つかピックアップしながら見ていただきたいんですが、①としては中立性というところをございます。この1つ目のポツとして書いているのは、圏域外の情報の共有の事業みたいなものを行ったときには、飲食店の協力なんかも、中間支援組織、中立的な組織であるということによって回答が得られたというような面があって、そういうような中立性というのが求められるんじゃないかというのが1つ目です。

それから、②の専門性ですけれども、例えば「ミステリアス山陰」という新規のコンセプトをつくっていくに当たっても、これは藤岡大拙先生のことを意識して書いておりますが、藤岡大拙先生にもいろいろ見ていただいてコンセプトも練り上げているというふうにも聞いております。そういうような専門性を持ちながらやることで質の高いことができるということであつたりとか、2つ目のポツとしては、いろんなところでインターネットを使ったような仕掛けをしております。そういうような技術なんかも専門性として求められる要素としてはあるのかなというところではあります。

それから、3つ目は迅速性、これは当初の委員会の議論のときにもありました。いろんな事業を展開する上で意思決定が遅れるとなかなか進まない面があるという意味で、迅速性というものを挙げております。

それから、次のページで、④としまして信頼性というところではあります。ここは今回のパイロット事業なんかを通して、例えば、所長である藤岡大拙先生の名前ということがかなり信頼性に効いてきたというようなところとか、地元のスタッフで事務局をやってもらっています。その地元のスタッフがもともと有しているようなネットワーク、そういう信頼性を使いながらいろんなことが進められるということで、信頼性というものが大切な要素であろうと。それから、継続性ということで、これも当初の委員会のときからずっと話題として出てくる部分ではありますが、特に、収益事業というようなものの可能性というものも踏まえながら進めていく必要があるというところをございます。

それから、第3節でございますが、中間支援組織が担うべき機能というのはどんな機能があるのかということについて今回の調査を通じて整理をいたしました。2つ目の段落の下から3行目ぐらいのところから見ていただきたいんですが、6つの機能に整理しています。順番にずっと並んでおります。(1) 情報収集発信機能、(2) 連携強化機能、(3) 人材育成

相談機能、(4) 資金支援機能、(5) 提案機能、(6) 代行機能という 6 つで整理できるのではないのかなというふうに思っております。この 6 つの機能については、次の下の段落の 3 行目のところから書いていますが、ここに掲げた (1) から (6) のすべての機能が中間支援組織に必要な機能だという意味ではなくて、労力とか経費とかの関係で、どれを現実的に担うべきかを考えていく必要があると。さらに、それぞれの機能の中でもいろんなやり方があるって、それも実情に応じながら現実的な選択というものが必要になってくるであろうというふうにまとめています。

まず、1 つ目の情報収集発信機能、この情報収集発信というのは、四角囲みの 1 つ目の丸に書いてございますように、情報があらゆる活動の基盤になるということで、中間支援組織にとっては基礎的に求められる機能ではないかという整理をしています。ただ、このやり方にはいろんな方法があるということで、それを適切に選択しながら取り組んでいくということが必要なのではないかと思っています。ちょっと補足しますと、四角囲みのすぐ下のポツのところ、2 行目のあたりからですが、圏域内の NPO にアンケート調査をしました、その結果の中でも、情報の提供とか交換発信というものを中間支援組織に期待するという答えが一番多かったというようなこともございます。

54 ページにいていただきまして、情報の収集なり発信というためのやり方が幾つかあるといったものを整理したのが、①、②、③、④というふうに 54 ページから 55 ページにかけて書いているものです。これはやってきたパイロット事業を基にしてその成果を整理したものでございます。

①は、まずは開かれたシステムによる投稿を基に情報収集し、発信するというやり方。これは今、ご議論になった市民投稿システムについて、多くの投稿が寄せられていろいろあったと。これは取り組みやすいテーマであったということだとか、携帯で簡単に情報が投稿できるというような工夫があったからという部分もあるかと思います。こういうようなシステム、単にそれぞれの市民が投稿して交流が進むということだけじゃなくて、この情報がかなり蓄積し、それが使える情報になっていくのではないかと。先ほど言ったように、どういうテーマが多いかというのを分析することによって、活動戦略にまさに役立てることもできるのではないかと。そういう意味で、労力とか経費を抑えつつ情報の蓄積というものが図られるというふうに考えられるということがあります。

ただ、一番下、3 つ目のポツを見ていただけたらと思うんですが、自由な投稿でやっているという情報が偏る可能性があって、どういう方向に向かってみんなでやっていこうかと。意図的に情報を、こんな情報を発信すればいいのと思うようなところを、うまく何らかの工夫で、テーマを持って投稿してもらうような仕掛けをしたりというような工夫も必要になってくるかもしれないということを書いています。

②の方では、中間支援組織が自ら情報収集する場合の労力の軽減ということで、質の高い情報、それから明確な目的を持つデジタル情報を自ら収集するということも考えられるときに、多大な労力を強いられるということなので工夫が必要ということで、今回は特派員を多数募るというようなやり方で情報の収集を行ったわけですが、そういった工夫が求められるだろうということです。

さらに、③としては、コンテンツの共同作成ですが、さらにもう一歩進んだところで、共同作業でいろんなワークショップをしたりしながら質の高い情報をつくっていくというようなこと。これも他団体を巻き込みながら一体感を醸成するという意味では、非常に意義のあることではないかというふうに思います。ただし、これはほかのものに比べても労力が大変だったという意見がございます。そういう意味では、状況に応じてどう事業を展開するかというのは見極めながらやっていかなきゃいけないんじゃないかというふうに思います。

それから、④は、①、②、③とはちょっと話を変えているんですけども、特に観光物販というようなものをテーマにした場合に、ターゲットになるのは地域外のところで、そことの連携ということで、その情報をどう地域内外で共有していくかというところです。今回の調査結果にもあるように、アンテナショップとか地元資本の飲食店、こういうものの普段から持っている情報というのを利用したりというようなこともできるのではないかとございます。こういうものを共有していくための中間支援組織がうまく介在していけば、埋もれている情報がうまく活用できるのではないかとございます。

それから、(2)として連携強化機能でございます。これは相互に連携するという事で大きな効果を発揮するようなものという、直接個々の取り組みを連携させていこうというものです。括弧書きの下の2段落目ですが、圏域内におけるアンケートの結果でもこういうものを求められる方が多く見られたとございます。まずは、1 つ目はインターネットを使った交流の場、これも先ほどと重なりますが、市民投稿システムなんかも交流の場として持っていこうということで、ここで連携が

進むきっかけになるという部分があるので、それをうまく使っていきやり方があるだろうということと、それから、56 ページを見ていただきまして、②として交流会の開催ということで、ネットで出会ったフェイス・ツー・フェイスの場であるということの意義というのがあるのではないかなと。特に、行政の区域を越えるエリアということで、これまでに交流したことがなかった団体との交流というものの期待もあるというところですよ。交流会開催については先ほどちょっと申しましたが、例えば、今回のように講演会と併せて開催することによって交流のきっかけをつくるというようなこともあるかと思っております。

それから、③、これも今の 2 つとは違う毛色の話ですが、地域外との連携の強化ということで、先ほどの情報の話と似ていますが、アンテナショップなんかを使って地域外の拠点と地元の関係者というものの連携の強化ということも考えていけるのではないかとこのところを整理しております。

それから、(3) として人材育成相談機能ということで、これまでは個々の力をどううまく結集させるかというような感じで書いてきたところがあるんですが、ここはむしろ個々の活動自体の力を向上させる、個々の力をアップするというような意味での人材育成とか相談機能というものもあるかと考えています。

この中で、今回の事業としては、詳細は 57 ページから整理しておりますが、①は講演会の開催ということで、日々の活動を行う上での参考となるような講演会を開催するというのも一つやり方としてはあるだろうと。それから、②としてインターネットを使っています。今回はうまくいっていない部分ではありますけれども、同じようにメーリングリストでやってみるとできたということの中から、ネットを使った相談全体が否定されるわけじゃないだろうと思いますので、そのときにどう信頼性を確保するのかという工夫を検討しながら、インターネットを使った相談システムというようなものも取り組んでいくということもやり方としてはあり得るというところでございます。それから、3 つ目は、フェイス・ツー・フェイスでの相談窓口ということで、これは特に今回の事業の中で対応したわけではないんですけれども、ゲストで来ていただいた岐阜の NPO の岩間さんの話の中にもありましたけれども、個別に専従スタッフが対応するというようなことも考えられるし、相談内容に応じて回答できそうな人を紹介するというような方法をやりながらやっていく。これに当たっては人件費がかかるということで、どうやるかというのはいろんな選択があるだろうというところでございます。

それから、(4)として資金の支援機能、これも個々の活動団体の力を資金面で向上させるという意味で、資金の支援というものもあるんじゃないのかというところでございます。今回の現場検証、パイロット事業の中ではこういう検証はできていませんので、事例検証を基に考えていきますと、58 ページにいただいていただきまして、やり方としては2つやり方があります。1 つは、補助金等の情報、どういうところにどういう補助金があってメニューがあるのかという、情報の一元化を図るということでも一つ支援になり得るだろうというところがあります。2 つ目は、補助金の受け皿になるということ等で分配する。そうすると、いろんなところの補助金だけでなくて寄付金なんかも一元化しながら分配するということもできる。これは岐阜 NPO センター等が今後取組まれようとしているところのお話を聞きます。

それから、(5)の提案機能というところです。これは各主体が活動しやすいような環境整備ということで、いろんなレベルの提案ということを行っていくということもあるのかなというふうに思っています。今回の現場検証では、例えば、ポータルサイトとかフリーペーパーが幾つかあるということに対してどう連携していけばいいのかというような提案も行っておりますし、それから、圏域外の情報共有事業では、そういう情報をどう収集してどう共有し、どう使っていくかということについての提案ということを行いながら、関係者から一定の評価を得られたのではないかと考えております。

ただ、この整理を行うに当たっては、中間支援組織というのは、やっぱり中立性とか独立性とかいうようなものが求められるというようなことはあります。ただし、これは、独自に提案するというところでいろんな分析もしていかなきゃいけない、調査もしていかなきゃいけないということもあって、非常に労力も経費もかかるということがありますので、実際取り組むときにはそういうことをできる段階でやるということになるのかなと考えております。

それから、59 ページの(6)の代行機能というところですが、これは前回の委員会のときに委員会の中でご議論があったところをまとめたもので、特に、規模の小さい団体とか、法人格を持たない団体とか、事務組織を持たない団体といったものがあって、そういうものに対する手続きの代行みたいなもの、行政との間に入るとか、手続きの代行をすることかいったようなことを中間支援組織に期待するという声もあるので、そういうものを代行機能というふうにまとめてみました。

その上で、次の 60 ページから、これは前回のときにもまとめましたが、

中間支援組織の組織体制をどういうふうにするべきかというところでございます。(1)として、組織形態としてどういうものかと。今回、特に行政を一つの対象、主対象にしないために、行政ではなく民営組織とするということがいいというのが一つの議論。それから、四角の中の2つ目の丸は、法人格を持っている方がいいというふうになっていまして、それは、例えば、いろんなことの契約をするという対応もありますし、代行の受け皿ということを考えれば、法人格を持っているということも考えなきゃいけないのかなということでもまとめています。

それから、(2)として、理事会と事務局の構築運営の方法ということです。今回、先ほど海外の事例で紹介したイギリスのグラウンドワークの組織を参考にしながら理事会と事務局を設置してやってみました。個々の成果については前回の第3回の委員会のときにご説明した内容とほぼ同じですので、簡単に説明したいと思います。

まず1つ目、理事会のメンバーとしては、今回とりあえず参加を呼びかけながら早急に立ち上げましたが、もう少し時間をかけながら、問題意識を共有しながらメンバーを確定していくことが手続きとしては要るだろうということだとか、広域的な取り組みなので地域バランスが要るだろうというようなことを主体にしています。

それから、61ページの下の方で、権限というところがあります。理事会は大きな方針みたいなものを決定するというものではあったんですけども、パイロット事業なんかを通じて、例えば、個別事業の実施の中でも経費の問題のようなもの、透明性の確保が必要な問題は理事会で決めるということが必要という結果が得られています。

それから、62ページにいただきました、事務局の中でございます。事務局の中のまずリーダーのところ。前回の資料のときには、外部スタッフがコーディネーター役を果たすということを割と強く打ち出していたんですけど、関係者のいろいろ意見を聞きながら、外部ということだけではなく、ちょっとトーンを弱めております。外部ということに限らず、地元にしがらみのない人ということがコーディネート役を果たすというようなことがいいのではということを書いております。

それから、63ページのスタッフというところですが、ここは、いろんな活動をする中で地元スタッフの人的ネットワークというのが有効に機能すると。ただ、これは事務局にスタッフとして入るということを経営上も必要とはしていなくて、関係するNPO団体の協力を取り付けるという形でも同じような機能は果たせるのではないのかということを書いております。

それから、63 ページの下の方は、外部アドバイザーとして地元の事情に精通しながら第三者の立場で意見をいただくということの有効性ということを記述しております。

それから、64 ページにいていただきまして、(3) でございますが、中間支援組織設立までのプロセスというところです。この組織の立ち上げ方として幾つか切り口があるのではないかとということで整理しています。1 段落目のところに書いていますが、行政主導でやっていくもの、民間主導でやっていくものという経緯があると思います。それが一つの切り口。それから、もう一つは、1 行目から 2 行目にかけて書いています、既存の一組織が中間支援組織に発展していくとか、または新しく一つの組織を作っていく単独型というものと、複数の団体があって、その連絡会議みたいなもので議論をしながらだんだんと一つの組織が出来上がっていくような複数型というようなものがあるのではないのかというふうな整理をしています。

以下にちょっと記述しておりますが、行政主導型であれば、その次の段落のところですけども、この圏域の中でも幾つか事例があります。単独型、複数型それぞれあります。その中で、民間の団体でなかなか機運が盛り上がっていないときにはこういうやり方というのがあるのかなという整理をしています。その次の段落で「民間主導型については」ということで幾つか書いています。この中でも単独、複数、それぞれ幾つか事例があるかと思います。その次の段落ですが、単独型の場合、一つの団体、既存のものがいろいろあるのであれば、そういうものをやっていく手はあるだろうと。複数型ということでは、多数の組織が既にいろいろあって、もっと議論をしていく必要がある場合にはこういうアプローチの仕方もあるのかなということがあります。

66 ページにいていただきまして、第 5 節としまして、「この圏域における中間支援組織の展望」というまとめ方をさせていただいております。まず、(1) として中間的な支援を担う。今回の調査の定義の中間支援組織とは必ずしも一致しない場合もありますが、それに近いようなことをしている組織というのは、ここの例に挙げる、これ以外にもあるかと思いますが、幾つかの組織があるのが現状でございます。

67 ページにいていただきまして、前回、特に観光なんかの面でいろんな協議会があるということをご説明しました。こういうのも一つの中間的な支援というのを担っているという部分もあると思っています。さらに、その次の段落で、圏域内の企業アンケートによればということですが、「NPO の中間支援組織みたいなものに対する協力はどうで

すか」ということをお伺いしたところ、かなりの人が協力していただくというような形の回答をいただいていると、意欲があるということがわかります。それ以外に、次の 1 行あけたところの「上記のほか」というところですが、中間支援組織の設立に関してさまざまな動きがあつて、1 つは、中海圏四市連絡協議会、ここでも民間の専従スタッフを事務局に置いたような組織を立ち上げるという動きがありますし、両県の経済同友会の合同懇談会の中では、先日、共同見解を発表されていて、その中で中間的な組織の設立の有効性というのを示されていて、そういう設置を打ち出されております。

その下の (2) 中間支援組織の在り方ということですが、いろんな団体があるんですが、そういう中でそれを一つにまとめて中間支援組織として再構築するというのはなかなか困難であろうというふうに思われます。先日ゲストスピーカーでお話いただいた岩間さんの岐阜 NPO センターの話では、いろんな中間支援組織がその中でも存在しているんですが、そのネットワークを構築して連携していくというやり方、そういうようなものが一つ参考にはなるのではないのかなというところがございます。

その次のページ、68 ページに、中間支援組織の在り方、これはあくまでもイメージ図ですけれども、いろんな中間支援組織というのが幾つかあるという中で、それをどううまく連携をとっていくかというところがございます。その中で、真ん中に一つ、中間支援組織の中間支援組織みたいなものの絵を描いていますけれども、これを早急につくろうということではなくて、多数の中間支援組織の中の連絡、先ほど単独型、複数型と言いましたけれども、その中の複数型という形でいろんな中間支援組織のようなものが立ち上がっている。その連絡会議みたいなものをまず動かそうと。その中でも議論を尽くした上で、それをうまく連携させるやり方を進めていくということが必要ではないかということ 68 ページの上のところでまとめています。

その際に、民間主導型か行政主導型かというところですが、まず、それを全部まとめていくに当たって、民間で動き出すところがあればいいんですが、それでうまくまとまらないところももしかしたらあるのではないのか。そういうときには行政が積極的に啓発しながらやっていく必要があるし、その際には、当然、複数の自治体にまたがる圏域でありますので、そこが連携して足並みをそろえながら、行政が誘導しながら、うまく連携を図っていくように動かしていくということが必要ではないかというふうなまとめ方をしています。

69 ページのところで、今後の展望というところがございますが、まずは、パイロット事業で立てた事業についてこれからどうなっていくのかというところについてまとめたものが 69 ページからでございます。まずは、ポータルサイトのうち、市民投稿システム、これについては、今やっているところで継続しながらサーバーの設置運営を行う予定ということでもあります。さらに、その収益事業としての発展ということも考えられるということで、さらなる発展・活用が期待できるというところがあります。それから、インターネット相談事業が、ここでは今現在やっていたいているスタッフの母体の NPO の方で継続して運営をしてもらうということですが、今回はちょっと調査期間が短かったということもあるし、幾つか工夫するべきところということもあるだろうと思いますので、それをどう継続するかというのを議論しながら進めていく必要があるというところです。

それから、その他のポータルサイトの事業に関しては、中海・宍道湖・大山圏域観光連携推進協議会の方で継続運営をしていくものの、その財源についてどう展開していくかというところが、確約みたいなものがされてないのが現状であろうということがありまして、今後は、これまでいろんな情報を蓄積してやってきたということがあって、それをうまく広告収入の中に掲げて収益事業の展開なんかも図っていく方法というのを考えていく必要があるのではないかなというようなことをまとめております。

それから、その下の圏域外情報共有事業についてですが、首都圏に出店するような飲食店の中にもこういうものを位置づけていくようなニーズの高い地区があります。これも今の中間支援組織の一部スタッフがこれから継続して取り組もうというような動きにもなっております。そういう圏域外の情報と圏域内の情報を組み合わせてうまく循環するシステムというものをこれからつくっていく必要があるだろうということでもあります。圏域内で、今言ったような首都圏から出店している店舗であるとか、アンテナショップの活用みたいなものを踏まえながら、情報の共有、循環システムというものの構築を行うということが必要ではないかなというふうに思います。

それから、その次、②の中間支援組織設立に係る今後の展望、先ほど申しましたような中間支援組織につながるような動きというのが幾つかあります。そのときに、先ほどの第 3 節で (1) から (6) という形で機能を 6 つに整理しましたがけれども、この圏域ではどういう機能を持って中間支援組織をやっていくのがいいのかということの一つのモデルを示

したのがこの②の記述でございます。1行あけた2つ目の段落のところから見ていただきたいんですが、これら6つの機能を整理してみました。多様な主体の活動との関係で整理すると、まず、1つ目の情報収集発信機能というのは、先ほども説明しましたが、多様な主体が個々に活動する、そのための基盤であるというような整理ができるかと。それから、(2)の連携強化というのは、個別に活動するのではなくて、それらの相互の連携で大きな効果を発揮するというもの。これに対して、(3)の人材育成相談とか(4)の資金支援とか(6)の代行機能というのは、個々の主体能力の向上とか活発化というものを狙ったもの。それから(5)の提案機能というのは、個々の主体に働きかけていろんな提案をしたりとか、行政に働きかけていろんな提案をする、そういう機能を想定しているということです。

この圏域において、パイロット事業を通じた地元での議論の中で、情報収集発信機能と連携強化機能が特に重要じゃないかという議論があったということで聞いております。以上のような整理から見ると、個々の主体の現在の力を生かしながら全体としてより大きな力を発揮するということを期待している部分が大きいから、これは中間支援組織の中でも特に核になる。要は、個々の力を生かしながら全体として大きな力にしていこうということで、核になる機能になるんじゃないかなというふうに考えられると思います。さらに、それはより小さい負担で大きな効果を期待できるような機能でもあるということもあって、今回のパイロット事業での成果を生かしながら、収益事業における自立的な体制というものをつくっていくことも期待できるんじゃないかなというようなことがあります。ただ、こういうような運営に関しては、地方公共団体も連携しながら、特に立ち上げ時にうまく支援していくということが求められるのではないかなというふうに思っております。

そのイメージ図として出たのが下の図になりますが、中間支援組織の運営として、自立運営を最優先、最小限の専従スタッフとか、パイロット事業を生かしたような資金確保みたいな事業をやりながら進めると。事業としては、右側にある情報収集発信、それから連携強化というものが核になるだろうと。これはいろんなNPOなんかの多様な主体と協働しながら事業を実施していくというやり方で、今回、パイロット事業でやった市民投稿システムとか、特派員によるコンテンツ、それから、首都圏店舗を活用したような情報収集発信なんかの情報収集発信機能を図っていくことと、それから、市民投稿システム間のネットワークをつくったり、交流会をやったりという形の連携の強化というものもあるのかな

と。その中で収益事業を上げながら自立的な運営を目指していくということ。その際に、地方公共団体の方が、複数の自治体が認定しながら、アドバイスとか立ち上げ時にそういうものが必要になってくるんじゃないかというようなまとめ方をしております。

報告書の説明は以上であります。

岡崎委員長

はい、どうも、ご苦勞様でした。かなり内容の濃い多方面に及んだものでありますけれども。細かい点でも結構なんです、お気づきのことがありましたら、ご指摘いただいて、当初、ご説明がありましたように、今日ここで結論をすぐには出せませんので、今日頂いた意見とそれからこちらの用紙でしょうか。

事務局

そうですね、その説明を。皆さま方の資料の下の方に、用紙を用意して入れております。そこの中に、後日ご意見を、その様式に必ずしもこだわるわけではありませんので、様式にそっていただくか、もしくはどこの場所にどんな意見と、わかるようにしていただければ、この報告書の中に直接入れていただいて、FAXでもメールでも結構ですので、ご意見いただければというふうに思っております。

鈴木委員

いろいろあるんですけれども。8 ページで考え方が示されて、50 ページで意義あって、51 ページで要件があって 53 ページから機能があって、最後にこの地域でどうしたらというご提案をいただいているんですけれども。どうもばらつきがあるというか、一貫通貫していない。頭に入っていない部分がずいぶんあって、機能なんかも、1 から 6 いろいろだというのはわかるんですけれども。例えば、これだけは、絶対やらなくちゃいけないものと、選択的にやっていいものとかってというのは、当然分けて使われなきゃいけないと思いますし。6 個の中の 1 個だけ、例えば提案機能だけあっても中間支援組織なんですかって言われたら、多分違うと思うんですね。そういうのに答えられるかたちになっていないし。とにかく、要件があるんですけれども、最後に提案されている、この地域でのあり方のところで、どういうかたちでこの提案されている仕組みがきているのかってというのは、出ていないんで。この要件がなければ中間支援組織はないわけですよ。ここの書き方でいえば、その要件が、機能のほうは、選択的でも構わないと思うんですけれども、要件が全部そろっていないと中間支援組織として成り立ちえない。その要件についてふれられていないというのは、これはなんか全体としても整合性がわか

りづらいなど。個人的な考え方なんですけれども、岐阜 NPO センターさんのヒヤリングとかその内容を全部肯定的に入れられているんですけれども、岐阜 NPO センターさんを一つのモデルにされているようにイメージするんですけれども。どこかありましたけれども、岐阜 NPO センターさんは、行政からの事業委託が大きな資金源になっているわけですね。岐阜県だとできるかもしれないんですけれども、この地域では、行政が金出してこういう機関を作るというのは、多分非常に難しいわけです。今、お金がなくてこの旅のポータルサイトですら、お金どうするという話をしているわけですから。その NPO を支援する NPO を、行政があれだけ負担して、あのときの岩間さんの話にも、専任スタッフを 4 人も 5 人も抱えているのは非常にづらいというお話があったんです。ということは、この地域においては、継続性がとれない組織なわけですね、あの仕組みは。だから、どうしてもそういうまとめ方にもっていききたいというのがあるんであれば別ですけれども、やっぱりその求められる要件として、継続性って何っていったら、その、中立性とか信頼性を専門性を担保するための継続性なわけですね。どっから、特定のところから、お金をもらい続けているというのは、行政からのお金がないとできないとかっていうのは、私はここで中立性が損なわれていると思うんです。だから、自主財源は必要で、それが、継続性ということなんじゃないかなとそういうふうに思ったんですけれども、そういう説明を 52 ページのところに書いていないんで、国交省さんのほうでどういうふうに思われているのかわからないんですけれども。そういう発想からやっていると、中間支援組織自体は、あれもこれもやるっていうのは、ここの要件、中立性とか継続性とか考えると自動的に制限されてくるのかなと個人的には思っています。そうすると、機能のところも、提案機能とかそういうものというのは、当然制限されるし、中間支援組織自体が、何か事業をやっていくっていうのが、難しいんじゃないかなというふうに、これまでの調査をして思っています。その辺をどっちつかずにしたままで最後のモデルというところでよくわからないところが出てくるのかなと。だから、最後のモデルのところと 68 ページの図というのは、どうつながっているのか、68 ページの図と 71 ページの図と同じことを地域に提案されているんですけれども、関連性がわからないんです。とくに 68 ページの図なんかはいただきたくない。もっと整理して、71 ページの図ぐらいであれば、ちょっとわかるのかなと思います。

これをやるためには、さっき言ったように、多分、NPO を支援する NPO としては、岐阜 NPO センターといっぱいあると思うんですけれども。こ

の地域の中間支援組織としては、あそこからちょっと考えを離れていただいたほうが、この地域としてはわかりやすい報告書になるんじゃないかな。ちょっと話が混乱してあれですけども、もう一度整理しますけれども、最終的に要件、機能というところをもう一度整理をしていただきたいなど。その再整理のときに、あまり岐阜 NPO センターさんにとらわれていただきたくないなという話と、68 ページの図が結果になるような報告書をちょっともう一度考え直してほしいといったところです。

それから、あと、細かい話を言うと目的の総合化という言葉、たぶんお役所の言葉だと思うんで、目的を総合化するというのは、日本語としてイメージは取れないので、別の言葉に変えていただけるとありがたいなど、そんなところです。

岡崎委員長 はい、何か、ありますか。

事務局 ご指摘を踏まえながらまた修正させていただきたいと思っています。一点だけ、ちょっと整理が悪いのかもしれませんが、機能の最初のところは広く書いていて、それは、多分いろんな正解が考えられるだろうなというふうに思っていて。ただ、その収益事業とかいろんなものができるようになってくれば、付加的にできるような機能が多分あるだろうというところも含めて、幅広く書いています。その機能の絞り込みの考え方というのも70ページの真ん中の下ぐらいのところから、書いていったというつもりではあるんですけども。もうちょっと、その前半の部分のところをうまく選択的にやるものとコアになるものというところの考え方というものを整理したかたちでまとめ直したいと思います。

鈴木委員 レベルが違うんじゃないかなという気がしていて、情報発信収集機能と、代行機能というのは、同じ横並びに並べられるものではなくて、情報収集発信機能ということで言うのであれば、この中ならコンテンツ共同作成支援機能とかそういうものまであげていって、それなら代行機能とレベルがあうのかなと。だから、ちょっとその言葉の問題があるのかもしれないんですけども、実際、具体的にやらなきゃいけない話とその抽象的な概念とが、ごっちゃになっている部分があると思うんですね。資金支援機能なんか、これは、もう具体的に見えるものですよ、連携強化機能なんかは、いろんなものがあったりするんで、その抽象的な概念と個別の機能とは、区別して整理されたほうが受けるほうはわかりや

すいんじゃないかなと思います。

事務局

70ページの真ん中からちょっと下のところで、6つの機能を整理してみたんですけれども、情報収集発信機能というのは、その一つの基盤となる機能であって、連携強化というのは、個々の主体を連携するという事で、結びつけていくというやり方をする。それに対して、代行機能とか資金支援とか含めて、人材育成相談も含めて、個々の能力の向上をねらっているようなものなんで、多分そのねらいが違うなんていうまとめ方をしているんですね。その辺が、今おっしゃったことと近いのかなというふうに思ったので。もし、こういう方向で違和感なければ、そのかたちで整理をしておきたいと思います。

鈴木委員

いや、私の個人の意見だけで全部変わるというのは、あれなんですけれども。いずれにしても、そのレベルの違いがあるとさっき言ったそのコアとノンコアのところのついていない中で1から6まで並んでいるんで、それをどういうかたちにせよ、整理していただきたいということで。岐阜NP0センターさんに対する評価については、そこはちょっと確認しておきたいと思います。

事務局

資金面の話については、確かに特殊な事情でもって、岐阜NP0センターさんが成り立っているんだと思います。しかも、ずっと続くわけじゃなくて、期限が決まりながらやっているところがあるんで。ただ取り組まれている内容そのものについては、大きな中間支援組織としては、ああいふ機能というのはあっていい話だろうと思います。それから、特に、中間支援組織が幾つもある中で、その中間支援組織みたいな、中間支援組織同士の連携をはかっていくような取り組みというのは、一つは参考になるんじゃないかなというふうに思っているところではあります。

鈴木委員

機能より要件のほうが優先すると思うんですけれども、ここに書いてある五つの要件を満たしているのかどうかということで、継続面で今特殊な要因での資金があると。その段階で継続性を満たしていないんで、そういうものを冷静に考える。今、おっしゃったような、やっている中身の部分で参考されるのはいいと思うんですけれども。そもそも中間支援組織じゃないという評価をしたんですね。そういう機能の話をされたほうがいい気がするんですよ。広い意味での中間支援組織であることは、

間違いなくて、最初のほうに書いてあるいろんな事例の中で、中間支援組織自体は、まだ、世界的に見てもちゃんと定義がない中で、この調査での定義づけという、そのレベルで要件を出されたわけですから、その要件に合っていたのか合っていなかったのかというのは、それは、はっきりしないと後ろにつながらないというものです。

事務局

わかりました。

松村委員

重要なお指摘ありがとうございます。ほかは何か。

毎熊委員

おそらく鈴木さんがおっしゃったこととかぶると思いますけれども、やっぱり報告書自体がちょっとわかりにくい気がします。というのも、ずっと最初から僕は言い続けていることで、やっぱり、一般論とこのパイロット事業がどこから区別されるのかちょっとわからないところがあるんですね。この目次を見てもちょっとわからないですね。ですから、少なくとも章ぐらいはしっかりわけるということがあったらいいかなとも思うし。例えば、これは完全に見てくれの話ですけど、NPO アンケートの調査結果があります。これは資料編にまわしてしまって、要点だけ必要なだけものを本編に書くということも必要だと思うんですね。ひょっとしたらこのパイロット事業自体や相談事業やらなんやらの説明を資料編に回していいのかもしれませんが。そこら辺は、どのくらいかかるかにもよりますけれども。とにかくこのタイトルは民間イニシアティブを重視した地域振興方策に関する調査ということですね。少なくとも、この地域の観光を中間支援を使って振興していこうという調査でありませんので、一般論と個別の具体例を峻別すると。その個別の具体例でいうとこのパイロット事業も、さっきから出た岐阜 NPO も、あるいは外国のことも一つ一つは資料にすぎませんから、事例といいますか題材にすぎませんので、そこら辺のところをわかりやすく分けていただけると、多少はさっきから出ている議論も幾つかわかるかなという気もしないでもないです。

ただ、それにも関連しますけれども、前にも申し上げましたように、やっぱり、中間支援というこれ自体がはっきりとよくわからないところがあるんですね。これは、おそらく定義が難しいということだし、あるいは実態としていろんなタイプの中間支援組織があってもいいという話なんですね。ですから、いろんなタイプがあってもいいという話をしっかりとした上で、なおかつ今回のパイロット事業で見えてきたある意味

理想的な、それももちろん条件つきです。例えば、観光をメインにするとか、この地域でいう幾つかの条件つきだと思いますけれども。この実験から見えてくる理想的な中間支援の要件というのはこういうものだというのを、やっぱり分けて書いてもらおうと伝わりやすいのかなと思います。かなりお手間だと思いますけれども、よろしくお願いします。

岡崎委員長

今回は、特にパイロット事業ということで、かなり重きをおいて全体の事業をやってきた。そこと本来の中間支援組織を日本の中で、しかも、国土形成計画策定の中で位置づけるという話と、結ぶということがなかなか当初からこの委員会の中でも難しかったわけで、最終的に出したこの報告書の中にどう扱うということであろうかと思うんですけども。もうちょっとほかの委員の皆さんのご意見も参考にしながら、また、相談していきたいというに思います。今回、最後の委員会になりますので、最終的には、こういう報告書があるとするに出ていきますので、何かお気づきの点がございましたら、ぜひ小さい点でもよろしゅうございますので、何とぞ意見がございましたらお願いしたいと思います。はい。

細羽委員

意見というよりは、感想に近いかもしれませんが、前段のパイロット事業の成果というところをお聞きして、それなりにやはり中間支援組織の意義というものは、実感いたしました。その上で、今回、今の報告書の説明を聞いて思ったことは、我々地域の人間として、何となくほんやりと中間支援組織の意義とかというのはわかるんですが、我々、この地域として、じゃ中間支援組織を作って頑張っていこうというモチベーションが上がってこないというか、そういう動機付けをするには、非常に弱いなということを思いました。それは、最後のあたりでいろいろその地域に対する提言、提案を頂いているんですが、ちょっとそのころのポイントがもう少し絞りきれないなというところの一つだと思います。それから、もう一つ、今回、国土形成調査ということで、国レベルでこの中間支援組織の意義とか必要性というのを探るという意味があると思いますが、やはり、この国として、この中間支援組織をどう評価し、これから、どう育てていくとかどう支援していくか、そういった視点というのやはり盛り込まれてくると、やはり我々地域の人間にとってももう少しやる気が出てくるし、なおかつ具体的に国としてはこういう部分で応援しますよとか。いろんな役割分担のところも踏み込んでいただければ、地域の人間にとってももう少し、やる気が出てくるもの

になるんじゃないかと思います。ようは、やっぱりそれを受け止める我々地域の人間が、これをどう受け止めどう行動していくかというところにつながっていくということが重要だと思いますので、ぜひその点もよろしく願いいたします。

岡崎委員長

はい、ありがとうございました。今回は、鳥取、島根という、両県をまたいで、やってみようということでしたので。特に地元の自治体の中からすれば、その辺のこと気になったことかなと思います。ほかは、いかがでしょうか。どうぞ、平田さん。

平田委員

今回が最後ということなんですけれど、本日のこの多様な主体の71ページの図を見まして、ようやく行き着く先が提示されたようで、全く3回訳がわからないような状態だというのが感想です。この前段が、毎熊先生がおっしゃったように訳がわからなかったという全くそのとおりで。こちら側にいるものは、ほんとに地域で活動している者の感想はほぼこれじゃなかったかなと思うんですけれど、ちょっと話はそれるようなんですけれど、私が住んでおります木綿街道周辺に、かつて造り酒屋が2軒、醤油屋が3軒ありますというふうにいつも申し上げておりましたが。去年の冬から1軒の造り酒屋が酒を造っておりません。そうしますと、この冬場も酒の仕込みのシーズンにその蔵は人っ子一人いません。ただのたるが置いてある蔵でしかありません。そうするとせっかく素敵な通りもやはりしみじみと寂しい。それでもう1軒の酒屋がこの時期仕込みですごくにぎわっております。そうするとやっぱりいいなと思うんです。このITというんですか、この世界もいくら情報がにぎやかに交錯していても、地元の人、私たち住んでいるものには見えません。どんなに、情報がたくさん盛り上がっていても、目に見えないことは、なかなか地元の人に理解していただくことが難しいと思います。なので、ようやくこの現実性の高い事業のところに、連携強化で活性化してという言葉がありまして、ほっとした次第なんですけど。私もITは苦手です。そして、書き込むことにもとても慎重にもなります。ぼんと送信するとぱっと広がることにとても怖い面も覚えております。そして、フェイストゥフェイスが重要だからこそうして会議というものも遠くからいらして、開かれると思うんですよ。だから、そのITによる中間支援組織、それとやはりもう一つ顔の見える交流会なり会議なりなんでもいいです。共同事業でもいいですけど、そういうものを一緒にすることによって、ようや

くその中海と宍道湖圏域が一つになる一步が見いだせるんじゃないかなという気がしています。この会議の全体としての感想としては以上です。

岡崎委員長

ほかはいかがでしょうか。はい、どうぞ。

柳沢委員

私も最近はいろんな調べ物をしたりとか地域のことを調べる上でも、インターネットで検索をしてあちこち調べて、なるほどなというようなことがとても多いんですが。やっぱり最近は、そういったメニューを活用することも増えてきているので、この地域に入ってこられる方というのは、まず、山陰ってどんなところだろう。米子ってどんなところだろう。松江って何があるのかなというのは、やっぱりこういうものを参考にされるということで、今回のこのパイロット事業でやって、これだけのいろんなアクセスがあって、それで、地元の人もこんなことがあるよっていうちょっとしたことが投稿できるというような気軽さというのは、事業をやってみたのはよかったのではないかなと思います。今、若い方、自分でブログをやっていたり、いろんな情報発信を簡単にできるということができていますので、やはりそういった人たちをうまく取り込みながら、この地域のよさを地域の人たちがどんどん発信していけるような、そういうようなことが中間支援組織なり、そういうところで支援していけたらいいのではないかなという気がしました。

先ほど、平田さんも言われたようにインターネットの世界というのは、とても怖いものがありまして、私たちでも事業をやっているんですが、ちょっとしたことに対しての攻撃とかいろんなことがあったりですとか、やはり全世界どこからでもというところがあるので、その情報をうまく出すところっていうのは、すごく大変だと思うんですね。だから、そういうところもあるんですが、逆に交流会みたいなかたちで、本当は口コミっていうのが一番効果があるというのがありまして。だから、実際にそこで体験していく人たちがこうやって語る、こうやって教えてあげることが一番いいような気がするんです。だから、そういうところもいろいろやりながら、地域の人とのふれあいをしながら、よく講演会とか、バネルディスカッションとかいろいろあるんですけども、それだけではなくて、この前皆生のほうでもそういうのがあって、そのあとに交流会があって、そこでまた続けてそのパネルディスカッション見ているだけだったんだけど、そのあとに実際に自分が質問したりできる機会を持ったりというのもすごく重要なことだなと思っていまして、つまりそういうところが、これからもっともっと必要なのかなというふ

うには感じています。

岡崎委員長

あとは、よろしゅうございますか。それでは、先ほどご説明がありましたように、まだお気づきの点があるかと思いますので FAX なりこの用紙なりをお使いいただいて、疑問や訂正依頼のようなところがありましたら事務局のほうにお寄せいただきたいというふうに思います。

報告書につきましては、若干積み残しの部分が、今日のご意見であろうかと思いますが、今日頂いたご意見、それからこの後頂くご返答を元に事務局のほうで再度作業をしていただきまして、それを皆さまにもう一度お送りしてご了解をとったあと、再度何かあれば、私と事務局のほうで最終案を作るという手はずにさせていただきたいと思いますので、委員会については、今、皆さんにそういうご了解をいただいておりますので、今回最終委員会ですけれども、これで終わらせていただきたいと思います。連絡事項よろしく申し上げます。

事務局

先ほど岡崎委員長からご説明があったように今回のこの資料もう一度、様式は問いませんので、ご協力いただければと思っております。それを元にまとめたものをもう一度送り返します。それをもう一度確認していただくというような作業になりますので、どうぞまた今後ともよろしく願いいたします。また、今回、非常に短い期間で実際の事業を動かすということで、なかなか委員会でうまく説明できなかった部分が私どももあると思います。非常にうまくできなかった十分お詫びを申し上げます。非常に活発なご意見いろいろ頂きまして、また、地域の実際の活動に根ざしたようなご意見いただいたということで、いろんな示唆が得られたんだろうと思います。ここで、委員会で、出席いただいた委員の皆さま方、それからさらに中間支援組織を作るに当たっている方々に協力をしていただきました。その方々への感謝もあわせて、心からお礼を申し上げたいと思います。どうもありがとうございました。

以上をもちまして、この委員会を閉会といたしたいと思います。本日はどうも長い時間ありがとうございました。

以上